

Outlookで送信すると特定受信側で添付ファイルが消失。

【概要】

Outlook からメールに添付ファイルを付けて送信すると(場合によっては添付しなくても)、受信側で以下のような現象が発生することがあります。

- メール本文が届いているが、添付ファイルがない。
- 添付ファイルは受信されているが、名前が“Winmail.dat”というファイルに変わる。
- “ATT00001.txt”(数字部分はその都度変化)というファイルが添付されている。
(自分宛に送信した際も発生)
- 本文は正常に表示されているが、その下にヘッダー情報から始まる不明な文字列が
沢山表示される。

【原因】

Outlook 2003 以降のバージョンの製品では、Outlook 独自の形式である「リッチテキスト形式(RTF)」が搭載されています。

基本的にこの形式に対応している製品は Microsoft Outlook のみである為、OutlookExpress を含む他のメールソフトで受信する際に正常に表示できるようにエンコードに依存しない TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) というフォーマットで送信を行っています。

この方式では、添付ファイルを含めたメールデータを“Winmail.dat”という dat ファイルにカプセル化をして送りますが、受信側のメールソフトが“Winmail.dat” ファイルをデコードできなかつたり、認識できない場合に、当該ファイルがそのまま残ったり、添付ファイルが消失するように見えたりする現象が発生しています。

厳密には「リッチテキスト形式」以外を利用した場合でも、特定の条件下で本現象が発生します。

Outlook 2010(Exchange 環境下以外)でこの現象を回避するためには、TNEF を使用して送信しないようにレジストリに変更を加えます。

尚、レジストリの変更を行うと、「投票ボタンの機能」や「仕事の依頼」、Word・Excel からのコピーなど、一部の機能が利用できなくなります。

(通常のメール送受信や連絡先、予定表の利用などを行っている範囲では問題ありません)

以下に、レジストリの変更方法を記載します。

【レジストリ設定】

『Outlook 2010』の場合

レジストリキー: HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥14.0¥Outlook¥Preferences

データの名前: DisableTNEF

データの種類: DWORD

データの値: 1

『Outlook 2007』の場合

下記の URL の『 Fix it』 ボタンをクリックすることで現象を回避できるようになります。

<http://support.microsoft.com/kb/958012/ja>

『Outlook 2003』の場合、以下のレジストリ設定を行います。

レジストリ キー: HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥11.0¥Outlook¥Options¥Mail

データの名前: DontEncodeCustomNote

データの種類: DWORD

データの値: 1

【レジストリでの設定方法】

注意: レジストリを誤って変更すると、深刻な問題が発生しますので充分注意してください。

①. レジストリ エディタの立ち上げ。

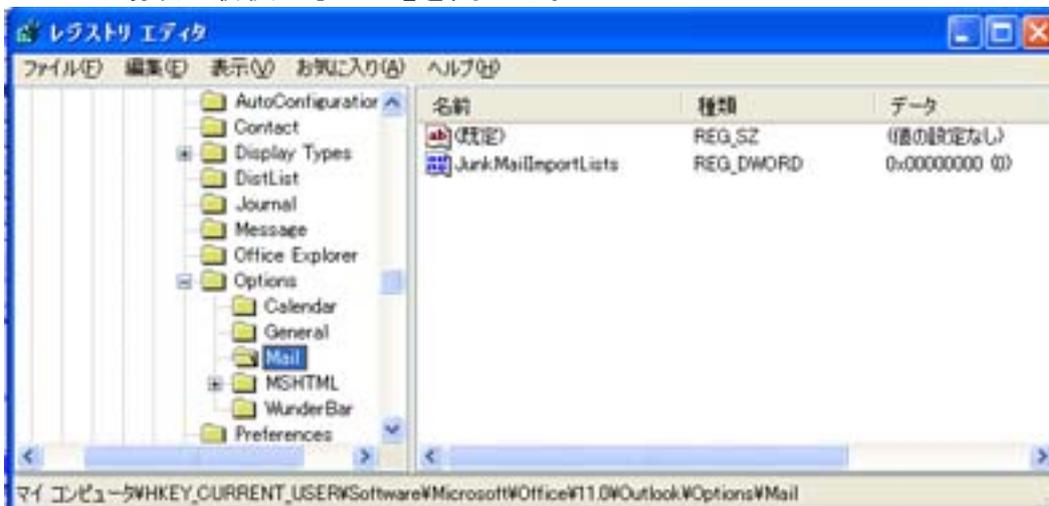
2010・2007: 『スタート』⇒『検索の開始』に『regedit』と記載し Enter

2003: 『スタート』⇒『ファイル名を指定して実行』⇒名前欄に『regedit』と記載し OK

②. 上記のレジストリキーに従いファイルを開け

2010・2007 の場合: 最後の『Preferences』を開ける。

2003 の場合: 最後の『Mail』を開ける。



2003 の場合

右空白で右クリック **新規(N)** で『DWORD 値』選択

『新しい値 #1』を右クリック「名前の変更」でデータ名を『DontEncodeCustomNote』に変更

2010 は『DisableTNEF』に変更

変更した名前をダブルクリックで「DWORD 値の編集」⇒値のデータを『1』に変更し OK

以上でレジストリ設定の完了。